

# 北海道における 太陽電池発電設備に係る景観上の配慮

第1回国立・国定公園内における大規模太陽光発電施設設置のあり方検討委員会

日時 2014年9月29日(月)

場所 八重洲貸会議室「会議するなら」田中八重洲ビル2F 会議室2A

北海道建設部まちづくり局都市計画課  
主査(景観) 松原 昭仁

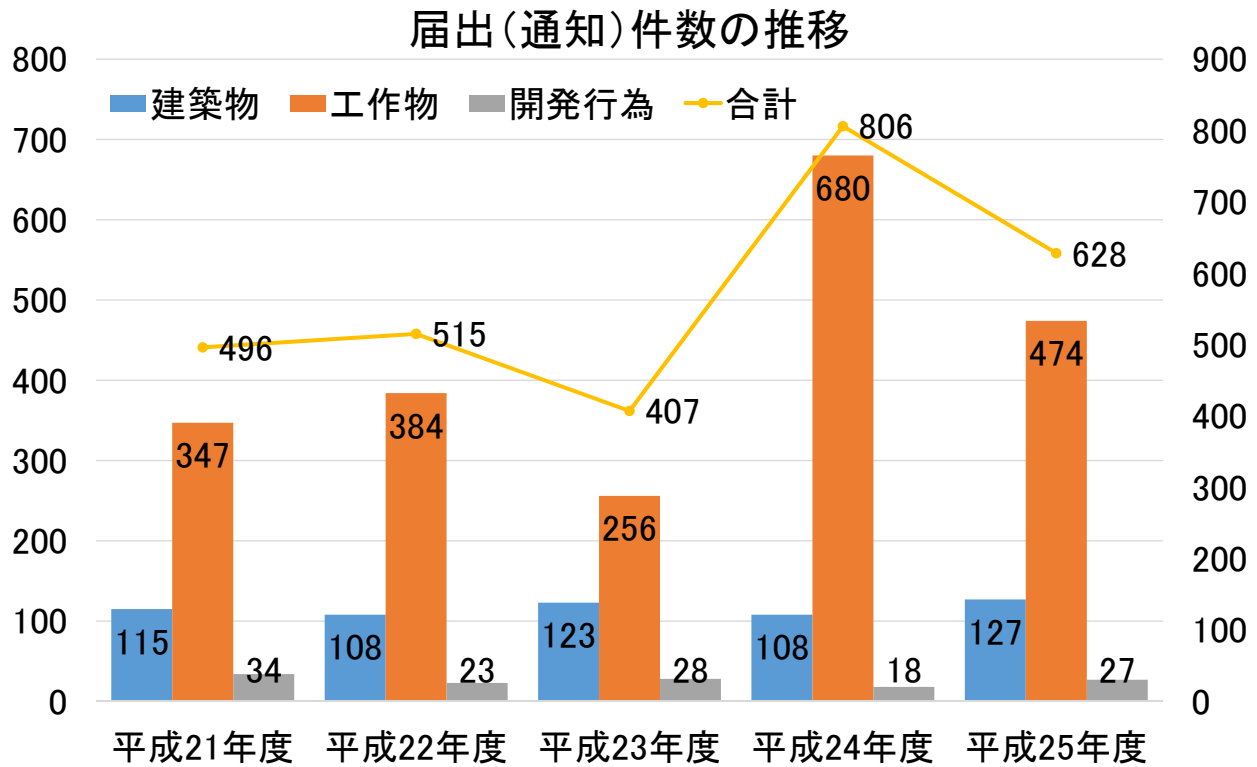
1

## メニュー

- 1 景観計画・規則改正の背景  
件数増加  
届出に係る照会多数  
景観審議会での審議
- 2 課題  
場所を選ばず(土地利用)  
大規模な整備が目立つ  
事業者の意識
- 3 対応状況  
ガイドラインを策定し景観形成を誘導

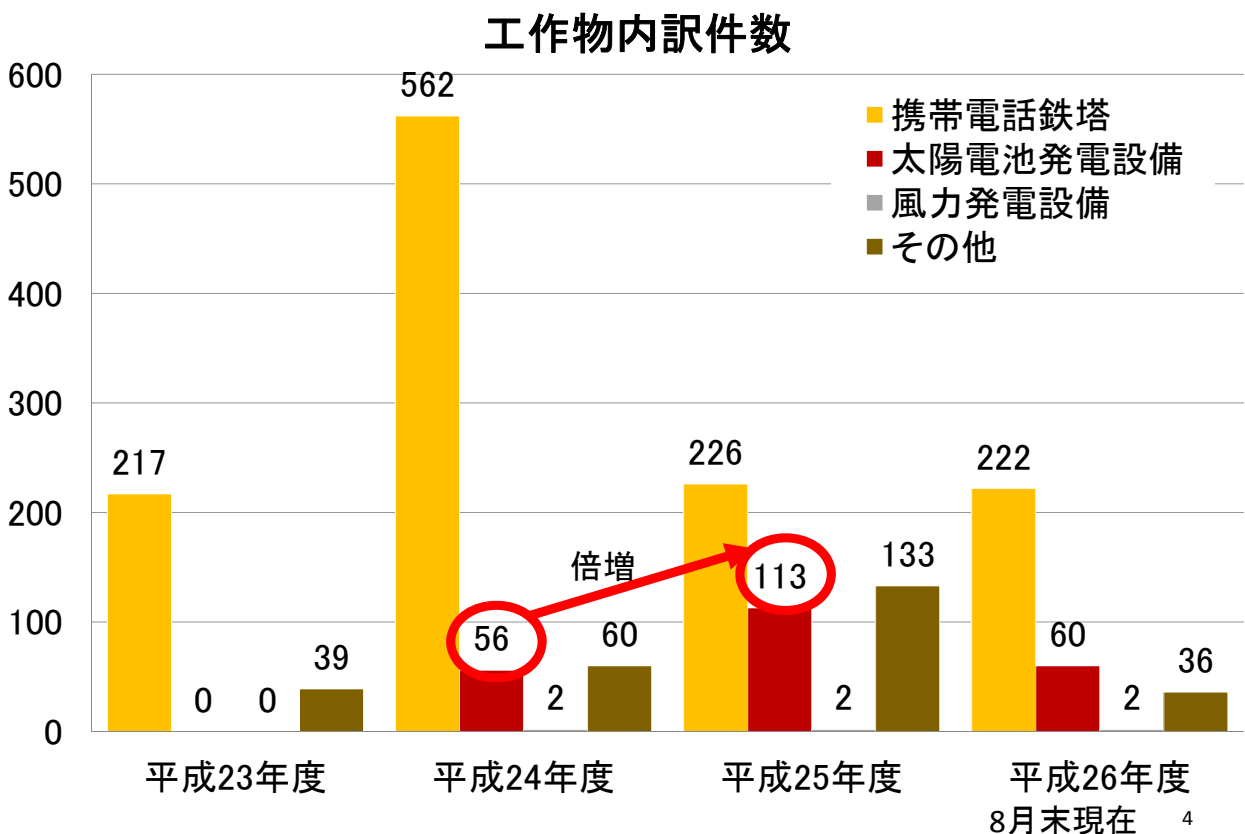
2

# 1 景観計画・規則改正の背景



3

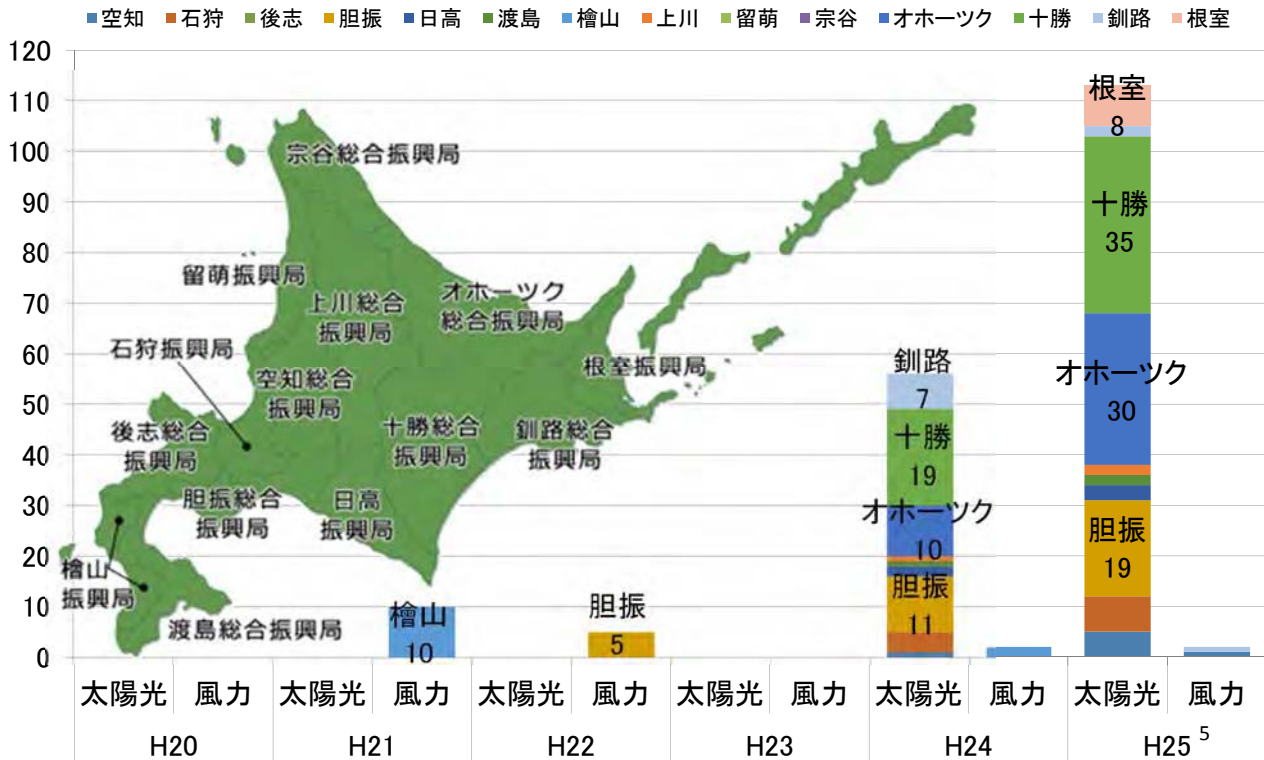
# 1 景観計画・規則改正の背景



4

# 1 景観計画・規則改正の背景

景観法に基づく行為の届出・通知件数  
(メガソーラー及び風力発電設備)



# 1 景観計画・規則改正の背景

## ◆ 再生可能エネルギー導入増加

- 立地規制困難

## ◆ 導入促進を図る市町村

- 住民意識とのギャップ

## ◆ 景観法に基づく届出

- 法に基づく勧告・命令措置必要

## ◆ 事業期間終了後の措置

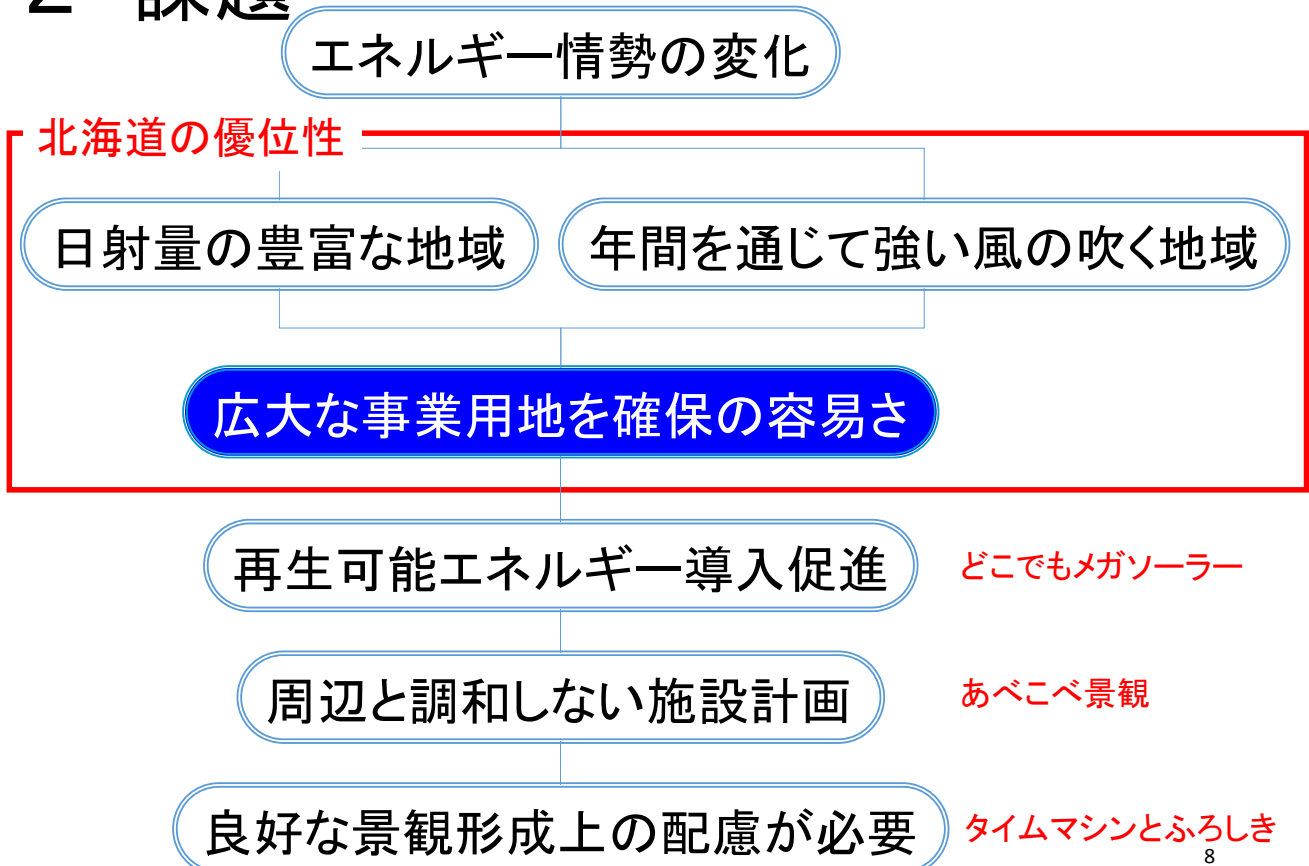
- 施設放置の懸念

# 1 景観計画・規則改正の背景

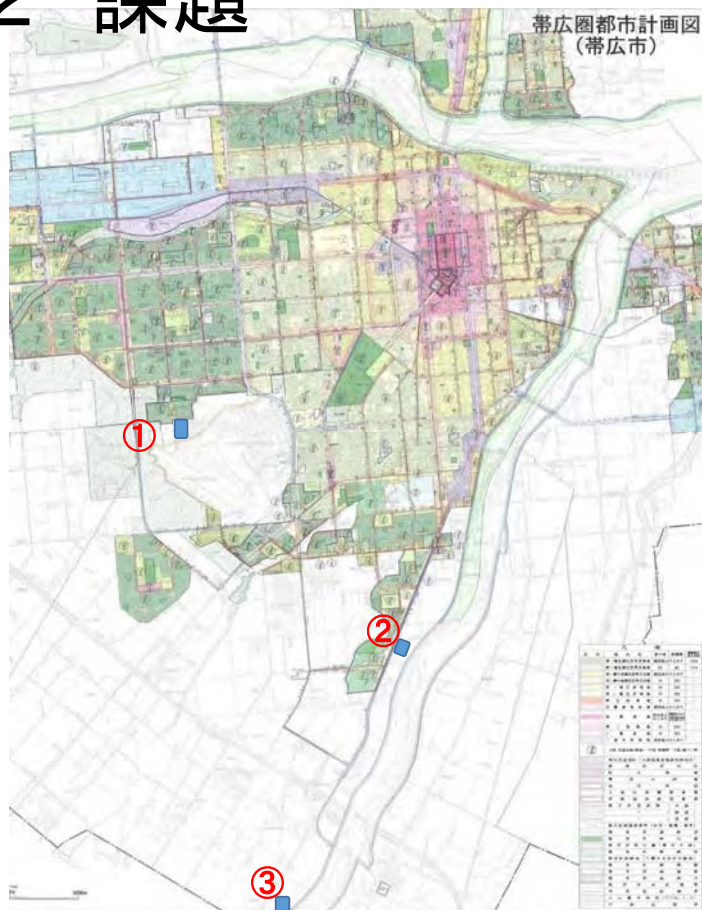
改正後の規定		従前の規定	
項目	規模	項目	規模
・太陽電池発電設備	一般区域 高さ5m 又は 築造面積2,000㎡	・さく、塀、擁壁等その他これに類する工作物	高さ5m
	羊蹄山麓 広域景観形成推進区域 高さ5m 又は 築造面積1,000㎡	・アスファルトプラント、コンクリートプラントその他これらに類する製造施設	一般区域 築造面積2,000㎡  羊蹄山麓 広域景観形成推進区域 築造面積1,000㎡
・風力発電設備	一般区域 高さ15m	・鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱その他これらに類する工作物	一般区域 高さ15m
	羊蹄山麓 広域景観形成推進区域 高さ10m		羊蹄山麓 広域景観形成推進区域 高さ10m

届出対象であることを明確に位置付け<sup>7</sup>

## 2 課題



# 2 課題



空き地があれば、どこにでも建設！  
企業の社会貢献活動？事業PR？



# 2 課題

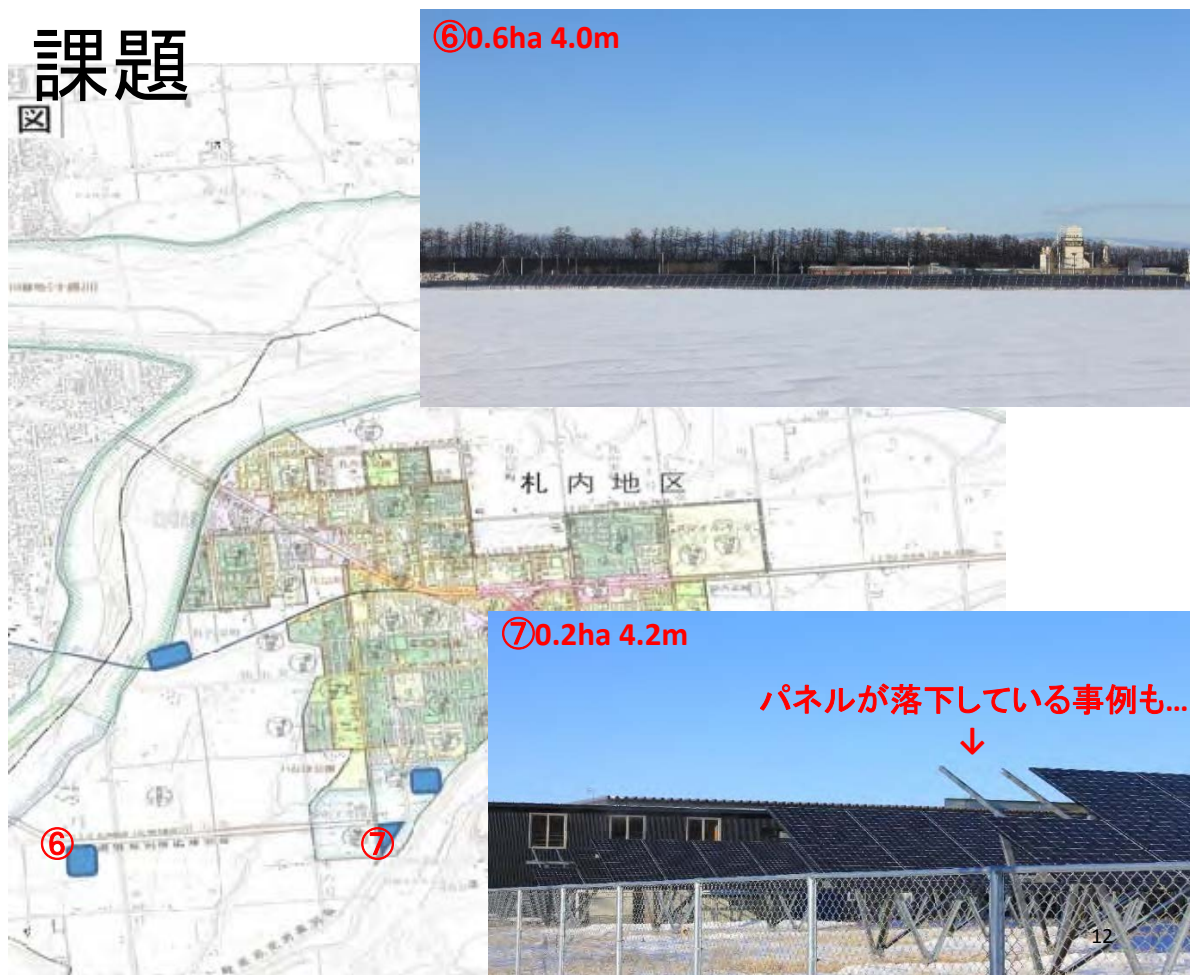


## 2 課題



11

## 2 課題



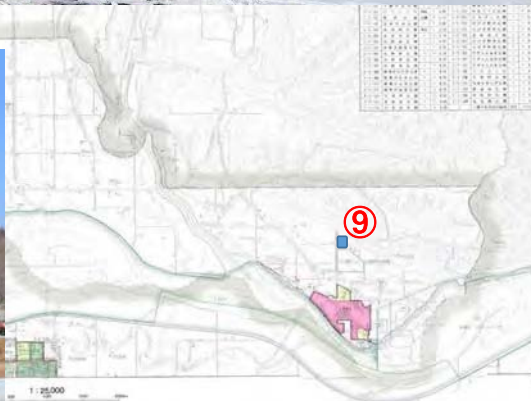
12

## 2 課題

⑧0.5ha 4.8m



⑨0.4ha 3.4m



法面に設置することにより、広範囲で眺望可能

13

## 2 課題



14

# 2 課題

0.5ha 3.6m



15

# 2 課題

## 釧路町にメガソーラー

○…大林クリーンエナジー…○

### 16年着工、植物工場併設も

【釧路】大林組の100%子会社、大林クリーンエナジー（本社・東京）は、釧路町の町有地で大規模太陽光発電所（メガソーラー）を計画している。9月の定例町議会で土地賃貸借契約の承認後に着工。試運転を経て2

017年5月からの稼働を目指す。同敷地内では植物工場の新設も計画し、16年春の着工、同秋からの稼働を予定する。施設整備は地域活性化を図るため、地元業者に最優先して協力を求める考えだ。

建設地はトリウシ原野62の1にある町有地。事業期間は20年で、67畝を賃借し、このうち50畝を太陽光発電施設、0・2畝を植物工場として活用する。8月6日、町とメガソーラー発電事業に関する協定に調印する予定だ。

太陽光発電所の設備容量は、太陽光パネル容量で1万7875キロワット、パワーコンディショナー容量で1万4500キロワットとし、全量を北海道電力に売電。年間発電量は一般家庭5000戸分に相当する量となる。

計画していたが、北電の出力抑制や蓄電池設置の義務付けなどの影響で入れ込んだ。事業費は当初65億円を試算していたが、蓄電池設置などで膨らむ見通し。設計施工は大林組が担う。

一方、併設する植物工場は、延べ500平方メートル規模の施設を4棟設置する予定。太陽光を利用し、フルトマトの通年栽培を計画する。設計、施工業者は未定。

地元の管理会社が農業法人を立ち上げて運営する事業形態とし、農業者や障害者などの地元雇用を検討。将来的には品種拡大や増設も視野に入れている。

大林クリーンエナジーは当初、稼働を14年度に



トリウシ原野

H26.7.24 北海道建設新聞

16



## 2 課題

### メガソーラー むかわに計画

ワタミが道内2カ所目

【むかわ】外食大手ワタミ（東京）は15日、胆振管内むかわ町に大規模太陽光発電所（メガソーラー）を建設する計画を明らかにした。出力は約1万9千瓩で8月に着工し、2015年12月の稼働開始を目指す。総事業費は約60億円。同社のメガソーラー建設は同管内厚真町（出力約1万2千瓩、今年12月稼働予定）に次いで2カ所目。

同社によると、民間企業が所有するむかわ町内の山林100瓩を取得し、その

うち35瓩にメガソーラーを設置する。全量を北海道電力に販売し、年間約9億円の売電収入を見込む。特別目的会社（SPC）の「北海道ソーラーマネジメント」が運営する。SPCはワタミの子会社と、メガソーラーの開発・保守を手がけている「市民ソーラーシステム」（札幌）が共同出資して6月に設立した。

メガソーラー建設には使わない約65瓩は山林として整備し、将来は有機農業での活用も検討する。また、むかわ町産の魚介類や野菜などの食材をワタミグループの飲食店で使用するなど、地域との連携も強化したい考えだ。

17

## 2 課題

### 岩見沢に8900瓩 メガソーラーを建設

大和グループ子会社

【岩見沢】大和証券グループの大和PIパートナーズ（東京）の子会社「岩見沢太陽光発電」（岩見沢）は、同市内に出力8900瓩の大規模太陽光発電所（メガソーラー）を建設す

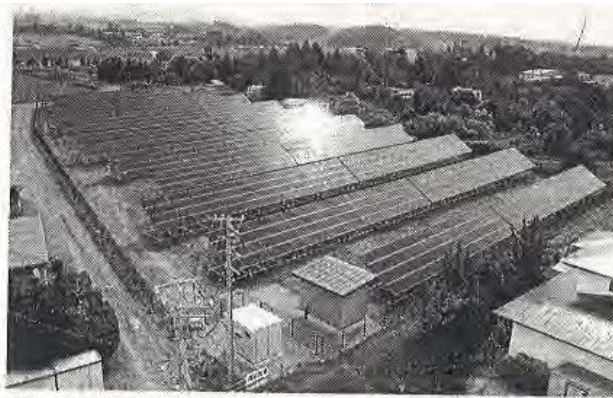
る。26日に起工式を行い、2016年春の稼働を目指す。

同市上幌向の上幌向工業団地の土地約14瓩を市から賃借。豪雪に備え、約3万枚の太陽光パネルを地上から約1・8メートルの高さに敷設する。発電した電力は再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を活用し、全量北電に売電する。総事業費は約30億円。

大和PIパートナーズはこれまで香川県や釧路市でメガソーラー事業を手掛けており、岩見沢の発電所は道内では3カ所目で、同社では最大規模となる。

18

## 2 課題



### 組 原 菅 太陽光発電所が稼働

菅 原 組  
グループ企業のカンエー

【函館】菅原組（本社・函館、菅原徹社長）グループ企業のカンエー（同）は、函館市石川町

で建設を進めていた太陽光発電所が完成、17日から稼働を開始した。

カンエーでは、菅原組の資材置き場にして函館市石川町に完成した太陽光発電所  
いた市内石川町247の11の所有地約4700平方メートルを有効活用するため、太陽光発電所の建設を計画。加藤組土建（本社・函館）が設計施工に当たり、4月末に着工、7月に完成し17日から発電を開始した。  
単管の架台を設置し、ソーラーフロントティア製で最大出力165kWの太陽電池モジュール1320枚を10列に並べた。発電量は217・8kWh。年間発電量は一般家庭約60世帯分の消費量に相当する27万7000kWhを見込む。  
事業費は約9000万円

円。全て売電すると収入は年間約1100万円となり、10年ほどで投資を回収できる見通し。菅原社長は「環境対策や土地の有効活用について考え

ていたところ、太陽光発電の提案を受けた。今後は、学校などから見学の申し入れがあれば積極的に対応したい」と話している。

H26.7.25 北海道建設新聞

19

## 2 課題

### メガソーラー事業者が展望台を設置...

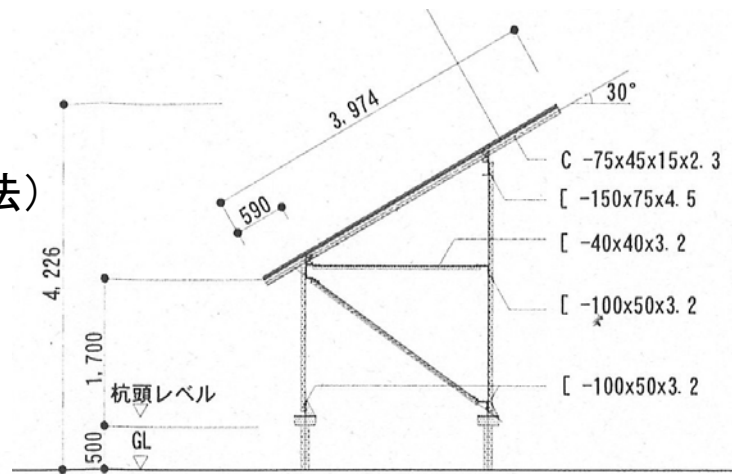
1.9ha 4.6m



20

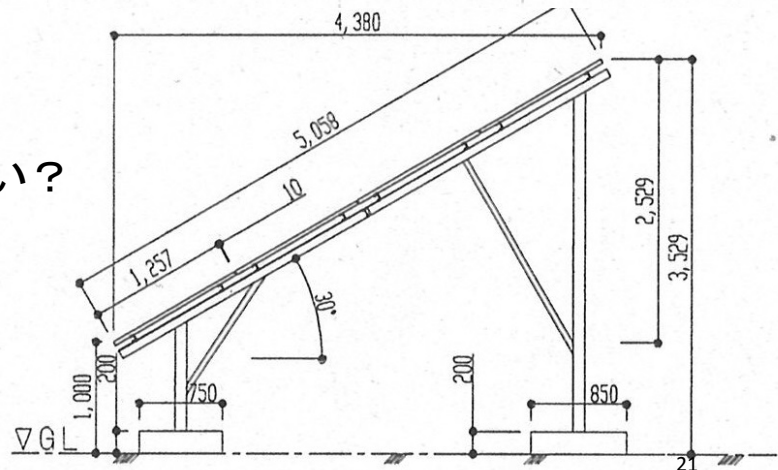
## 2 課題

北海道の積雪深(建築基準法)  
最大2.5m(幌加内町)  
最小0.6m(日高地方)  
概ね1.0m超え  
羊蹄山麓(ニセコ周辺2.3m)



羊蹄山麓: 事業計画なし

- 多雪地域?
- 景観形成上調和が難しい?
- 冬期間の天候?



## 3 対応状況

各種課題に効果的に対応するため

**「景観形成ガイドライン」が必要**

なぜなら・・・

地域における魅力ある景観づくりは、**行政が強固な「飴」と「鞭」を用いて強く引っ張っていくのではなく、景観形成に関する様々な取り組みを通じて、景観づくりに対する認識や意識が少しずつ変わり「美しい北のくにづくり」に向け、地域が主体となり着実に進めて行かなければならない。**

# 3 対応状況

## 北海道の景観特性と視点

### I. 自然を生かした景観をつくる

- ① 背景となる自然環境を保全し豊かにする
- ② 背景となる自然との調和を図る
- ③ 緑や水辺などの自然を育てる
- ④ 冬の景観にも配慮する

### II. ゆとりと秩序ある空間としての景観をつくる

- ① 自然環境との調和のある見はらしを保ち、まちのふちどりを明確にする
- ② 北海道の「雄大」「シンプル」のイメージを大切に景観とする
- ③ ゆとりある配置と、秩序のある連続性によってゆとりと広がりをつくる

### III. 歴史的な景観をつくる

- ① まちの歴史や伝統、文化、地域の特産品などを活かした個性づくり
- ② 歴史的建造物の保全・活用により、シンボルの育成と調和による個性づくり

### IV. 風土に適した景観をつくる

- ① 地域によって異なる風土に適した環境を創造する
- ② 地域の景観形成への先導的なデザインの採用による新たなまちの個性づくり
- ③ 地域の資源を活かした地域の個性づくり

23

ご静聴ありがとうございました。

北海道の景観形成に関するお問合せ先

〒060-8588

札幌市中央区北3条西6丁目

北海道建設部まちづくり局都市計画課

基本計画・景観グループ

電話 011-204-5563(直通)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/tki/mdr/index.htm>

24